

「新大分スタンダード」に基づく 組織的な授業改善

平成29年4月28日(金)

大分県教育庁中津教育事務所

I 授業改善を目指した管理職による指導

1 「新大分スタンダード」の視点からの授業改善

—「新大分スタンダード」が目指している授業像の確認—

(1) めあて・課題・まとめ・振り返りの役割

(2) 評価規準の設定

(3) 生徒指導の3機能を生かした授業のために

(4) 「新大分スタンダード」で求める問題解決的な展開の授業

2 目標達成に向けた組織的な授業改善

(1) 授業改善の5点セットの設定

(2) 授業改善のPDCA

II 授業づくりを指導する際の目の付けどころ

1 指導案を読む際の着眼点

2 特に重点をおきたい「論理的に説明する力の育成」

終わりに



I 授業改善を目指した管理職による指導

授業改善を目指した県教育委員会の取組

1 「新大分スタンダード」の視点からの授業改善

- 全ての教室で一定レベルの授業を提供
- 次期学習指導要領でも求められる授業像の追究
- 習熟の程度に応じた指導による低学力層の底上げ

2 目標達成に向けた組織的な授業改善

- 学校の重点目標達成のための組織的な校内研究の充実
- 協働と切磋琢磨、PDCAによる授業力の向上
- 学級間や学年間、教科間の取組の差の解消

3 「中学校学力向上対策3つの提言」の実行

- 教科部会の充実等による教科の専門性の向上
- 授業評価等による「生徒と共に創る授業」の実現

【各学校に求める授業改善の方向】

「新大分スタンダード」の視点からの授業改善を「『目標達成に向けた組織的な授業改善』推進手引き」の考え方を活用して進める

1 「新大分スタンダード」の視点からの授業改善

新大分スタンダード

「学びに向かう力」と思考力・判断力・表現力を育成するワンランク上の授業

1 1時間完結型

「主体的な学び」を促す「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」

- *学習の見通しをもたせ、意欲を高める「めあて」
- *学びの成果を実感し、学んだことや意欲・問題意識等を次につなげる「振り返り」
- *追究すべき事柄を明確にする「課題」、追究した結果を明確にする「まとめ」

2 板書の構造化

- *思考を整理したり促したりする板書、思考の過程を振り返ることができる板書

3 習熟の程度に応じた指導

- *「具体的な評価規準」に基づく確かな見取り
- *「努力を要する状況」の児童生徒に対する手立ての工夫



安心して学べる「学びに向かう学習集団」

4 生徒指導の3機能を意識した問題解決的な展開

主体的・対話的で深い学びを創造する学習展開

各教科の見方・考え方を働かせて展開する「課題設定⇒情報収集⇒整理分析⇒まとめ・発信・交流⇒振り返り・評価」等の学習過程の中で行われる

- *問いの発見・解決、自己の考えの形成・表現、思いに基づく構想・創造
- *様々な人との対話・協働による自分の考えの深化・拡充

みんなであらゆる授業を創ろう！ 魅力あふれる授業

学びを変える
キミが変える

この詩を参考にして、クラスのオリジナルソングをつくってみよう！！

- 1 授業では「めあて・課題」を理解しよう
- 2 まずは自分なりの考えをもとう
- 3 考えたことは人に伝えていこう
- 4 友だちと協力して考えよう、やりとげよう
- 5 「まとめ・振り返り」で学びの成果を実感しよう

授業では「めあて」「課題」を理解して「めあて」から見通す これからはじまる学び

まずもう 自分の思い・考えを
間違いは怖くない 自分で考えるんだ

思い・考え伝えよう みんなで学び合おう
しっかり聴いてくれる 仲間たち

胸の中にある疑問 いつも確かめ合うこと
分からないままにせず 求め追いつづけて
キミの思い・考え 広げ深め高めよう
学び確かなものへ

「まとめ」確認「振り返り」で 成果をかみしめて

これからは キミが変える 魅力あふれる
授業創ろう 授業創ろう

胸の中にある疑問 いつも確かめ合うこと
分からないままにせず 求め追いつづけて
キミの思い・考え 広げ深め高めよう
学び確かなものへ

「まとめ」確認「振り返り」で 成果をかみしめて
学びを変えてゆけ！ 自分を超えてゆけ！！

Let's put this experience into practice.

「新大分スタンダード」で「アクティブ・ラーニング」



「めあて」

授業で学ぶ目的やゴールへの見通しを示したものです。

「課題」

授業で何について考えていくのかを示したものです。

「振り返り」

学んだ成果を確かめ次の学習につなげる準備です。

「まとめ」

「課題」に対する答えや結論です。

大分県教育委員会

◆「新大分スタンダード」で、「学びに向かう力」と思考力・判断力・表現力を育成するワンランク上の授業を目指して

学びを変える
キミが変わる

- 1 授業では「めあて・課題」を理解しよう
- 2 まずは自分なりの考えをもとう
- 3 考えたことは人に伝えていこう
- 4 友だちと協力して考えよう、やりとげよう
- 5 「まとめ・振り返り」で学びの成果を実感しよう

「めあて」

授業で学ぶ目的や
ゴールへの見通しを
示したものです。

「課題」

授業で何について
考えていくのかを
示したものです。

「振り返り」

学んだ成果を確かめ
次の学習につなげる
準備です。

「まとめ」

「課題」に対する
答えや結論です。

♪ 授業では「めあて」「課題」を理解して
「めあて」から見通す
これからはじまる学び

この詩を参考にして、
クラスのオリジナルソングを
つくってみよう！！

まずもとう 自分の思い・考えを
間違いは怖くない 自分で考えるんだ

思い・考え伝えよう みんなで学び合おう
しっかり聴いてくれる 仲間たち

胸の中にある疑問 いつも確かめ合うこと
分からないままにせず 求め追いつづけて
キミの思い・考え 広げ深め高めよう
学び確かなものへ

「まとめ」確認「振り返り」で
成果をかみしめて



これからは キミが変える
魅力あふれる
授業創ろう 授業創ろう

胸の中にある疑問 いつも確かめ合うこと
分からないままにせず 求め追いつづけて
キミの思い・考え 広げ深め高めよう
学び確かなものへ

「まとめ」確認「振り返り」で
成果をかみしめて
学びを変えてゆけ！
自分を超えてゆけ！！

学びを変える
キミが変える



児童・生徒が
このような授業を創るために
教員に求められていることは何だろうか？



この視点から
「新大分スタンダード」や組織的な授業改善を
捉えなおし、授業改善をすすめてほしい



新大分スタンダード

新大分スタンダードで
主体的・対話的で深い学びを！

「学びに向かう力」と思考力・判断力・表現力を育成するワンランク上の授業

1 1時間完結型

「主体的な学び」を促す「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」

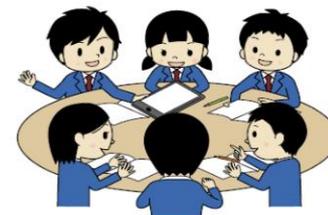
- *学習の見通しをもたせ、意欲を高める「めあて」
- *学びの成果を実感し、学んだことや意欲・問題意識等を次につなげる「振り返り」
- *追究すべき事柄を明確にする「課題」、追究した結果を明確にする「まとめ」

2 板書の構造化

*思考を整理したり促したりする板書、思考の過程を振り返ることができる板書

3 習熟の程度に応じた指導

- *「具体的な評価規準」に基づく確かな見取り
- *「努力を要する状況」の児童生徒に対する手立ての工夫



安心して学べる「学びに向かう学習集団」

4 生徒指導の3機能を意識した問題解決的な展開

主体的・対話的で深い学びを創造する学習展開

各教科の見方・考え方を働かせて展開する「課題設定⇒情報収集⇒整理分析⇒まとめ・発信・交流⇒振り返り・評価」等の学習過程の中で行われる

- *問いの発見・解決、自己の考えの形成・表現、思いに基づく構想・創造
- *様々な人との対話・協働による自分の考えの深化・拡充

(1)めあて・課題・まとめ・振り返りの役割

ねらい

- 「目的（身に付けさせたい力など）」と「手立て（その授業の中心となる学習活動）」を明らかにして設定します。
- 評価規準は「ねらい」との整合性をもたせて設定します。
- 指導のねらいは、教師の立場で書くもので児童生徒に提示することは基本的にありません。
※ただし、指導案では「～できる」という形で、児童生徒の「目標」として提示することもあります。

めあて

- 「ねらい」を児童生徒の立場で示したものです。
- 具体的には、付けたい力を身に付けさせるための、めざす「活動のゴールの姿」や「ゴールとそれまでの道筋」を示します。
- 具体的な評価規準が設定できていないと、「めあて」が曖昧なものになります。
- 学習の見通しを持たせ、意欲を高めるものになるよう工夫しましょう。

課題

- その時間に解決すべき事柄です。
- 「なぜ、～なのか」「～することはできるだろうか」「どうしたら～できるか」等疑問の形で示します。
- 児童生徒が追究したくなる課題になるよう工夫しましょう。
 - ①既習事項や既有事項とのズレがある
 - ②意見の対立・拮抗が生じる
 - ③目標達成のために越えなければならないハードルがある
 - ④素朴な驚きや疑問、憧れから問題意識が醸成される等の要素がある課題になるよう工夫しましょう

まとめ

- 本時の課題に対する答え・結論。

振り返り

- 学びの成果を実感させ、学んだことや意欲・問題意識等を次につなげられるよう視点を設けましょう。その際、本時のキーワードや学習用語を用いる等の条件を設定して学びを振り返らせるなどの工夫をしましょう。

「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」の4つがどの授業でも必要であるというわけではありません。「めあて」と「課題」の提示の順序が変わることもあります。大切なことは、型にこだわるのではなく、教科の特性や単元の展開、本時のねらい等に応じて適切に設定することです。

めあて

まとめ

課題

あけび

ゆり

ゆり

ゆり

ゆり

※板書には「振り返り」位置付けられていないが、実際の授業では行っている

- 「めあて」と「課題」の提示や順序は、子どもの思考の自然な流れを意識して柔軟に。
- 型にこだわるのではなく、教科の特性や単元の展開、本時のねらい等に応じて適切に設定する。

(2) 評価規準の設定

♪ 「まとめ」確認 振り返りで
成果をかみしめて ♪

単元の評価規準

「評価規準の作成, 評価方法等の工夫改善のための参考資料」(国立教育政策研究所)をもとに作成

本時の評価規準

付けたい力の
明確化

単元の評価規準、評価計画に基づいて、
本時の教材・学習活動から
指導者自身が

「B おおむね満足できる状況」と「C 努力を要する状況」
の区別ができるところまで、かみ砕いて、具体的に設定

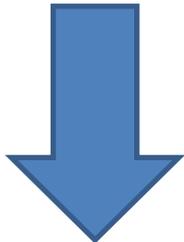
⇒ **本時のゴールの姿の具体化**

【本時の評価規準の設定例】

【評価規準】

根拠をもって第4楽章にふさわしいタイトルをつけている。

【めあて】: 曲の特徴をとらえ、第4楽章にふさわしいタイトルをつけよう。



具体的に
考える

どのようなことができるようになってほしいのか
どのような発言ができるようになってほしいのか
どのような記述があってほしいのか

【評価規準】

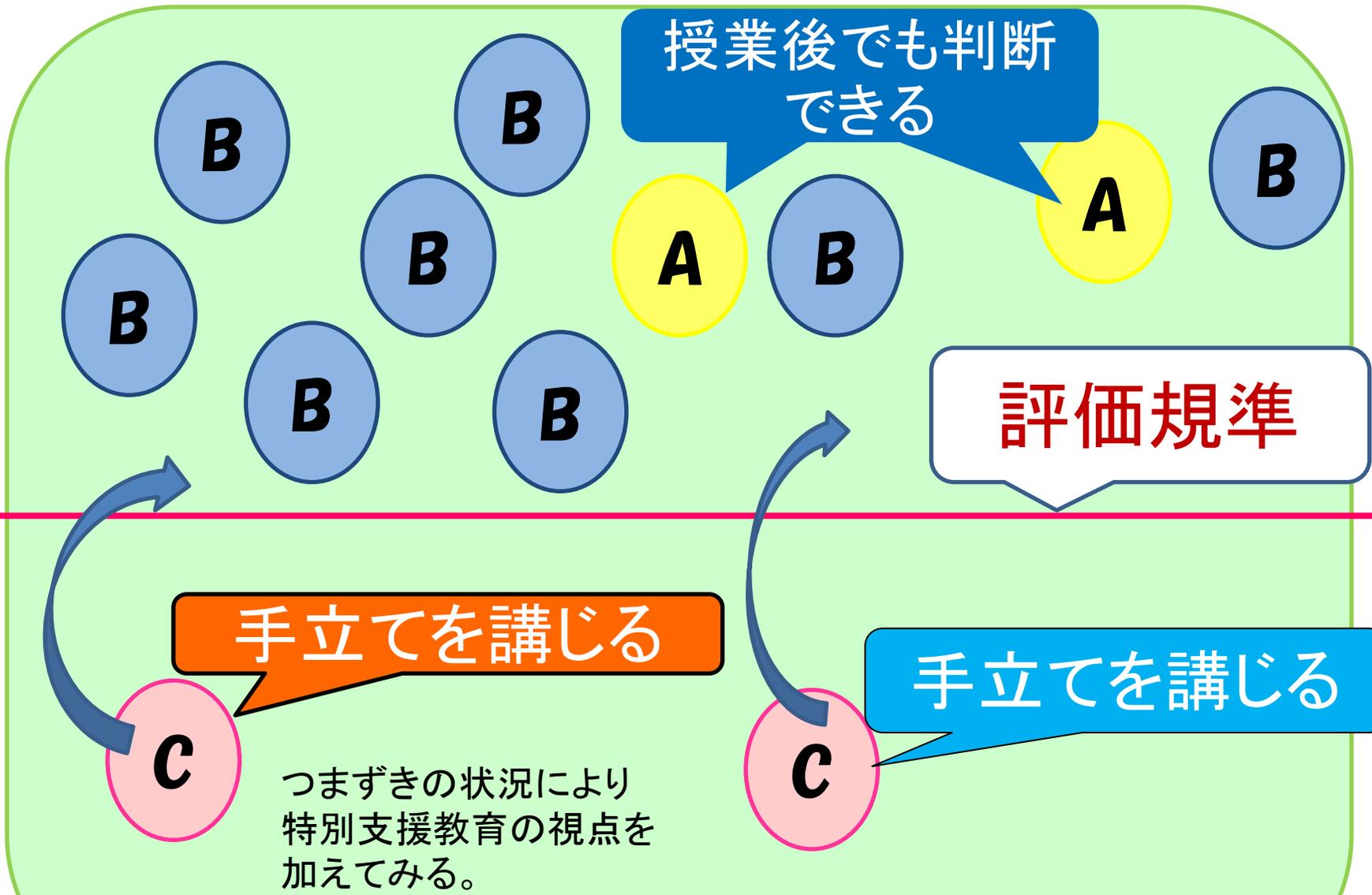
第4楽章の旋律や音色を知覚し、それらの働きが生み出す雰囲気を感じしながら、その特徴である上向の旋律や楽器の音色の明るさをとらえ、根拠をもってふさわしいタイトルをつけている。

【めあて】

第4楽章を、第1楽章の旋律や楽器の音色と比べながら聴き、根拠をもってふさわしいタイトルをつけよう。

評価規準を具体的に設定するなかで、指導が焦点化され、手立てが見えてくることも多い

【具体的な評価規準の設定】



「付けたい力の明確化」とは「評価規準の明確化」

【評価に係る管理職からの指導・助言の例】

①具体的なゴールを描くために

・求める成果物のモデルを自分で作成してみよう

成果物の中で本時・本単元で評価するのはどの部分で、どの程度まで求めるのか明らかにさせる

・「まとめ」や「振り返り」の文章を自分で書いてみよう

必ず使わせたい学習用語や期待する感想を想定させる

・「ねらい」によっては、確認問題を設定してみよう

②「個々の学習状況を把握する」ために

・思考を可視化する工夫をしてみよう ……書かせる

③評価の落とし穴を自覚させておく

- (例)・レポートの内容より、まとめ方を評価してしまうことはないか
- ・話合いの内容ではなく態度を評価してしまうことはないか
 - ・グループの成果物だけで個人を評価してしまうことはないか

〈特別支援教育の視点を加えた習熟の程度に応じた指導イメージ〉

本時の目標（ねらい）にある「付けたい力」の育成状況の把握

評価規準に
照らし合わせたもの

大部分の児童生徒が、「B:おおむね満足できる」状況

「C:努力を要する」状況の児童生徒が多い状況

指導の工夫の
有効性を検証

指導の工夫の
問題点を分析

「C:努力を要する」状況の児童生徒の具体的な状況(つまずき)の把握

項目	障がいによる「つまずき」の視点
読み	文字の認識、語句理解、認識方法の特性 など
書き	綴る能力、手先の器用さ、正しい文法の摘要 など
計算	数学的演算の実行、問題に適した数学的演算の適用 など
注意	行為の遂行、外的刺激の影響、注意の維持・移動 など
対人関係	話し言葉の理解、言外の意味理解 など

①ICF大分モデル
ワークシートを活用
すると更に広範囲に
把握できる。

「C:努力を要する」状況の児童生徒に必要な支援の検討

項目	必要な支援（合理的配慮を含む）の例	
	・障がいによらない 様々な支援	
読み		振り仮名、関係図の活用、手順書の活用 など
書き		書字サイズの調整、紙の滑り止め、PC入力 など
計算		具体物の活用、実生活での活用例、計算機の活用 など
注意		刺激（音や色）の調整、注意を引く工夫 など
対人関係		文字や図表の活用、具体的表現の使用 など

②合理的配慮は、
・物理的環境の調整
・意思疎通の配慮
・慣習の変更の観点
で考える。

④「個に応じた指導の手引き」(H29.3)を参考

個別の指導計画の作成

③様式(記入例付き)を参考にできる。

授 業 改 善

・他の教科・学年における活用の確認
・さらなる充実のための工夫の検討

・問題点の改善
・別の指導の工夫の検討

*①～③は大分県教育委員会HP「ICF大分モデルを活用した合理的配慮の検討」に公開（「ICF大分モデル」でWeb検索すると様式等をダウンロードできる。）

(3) 生徒指導の3機能を生かした授業のために

1 自己決定の場の充実

♪ **まず もとめ 自分の意見・考えを** ♪

◇ 適当な時間の確保

◇ 考える視点や方法が分かっていることが重要

何をどのように考え、
どのようにまとめればよいのか、
分かって取り組んでいる



(支援の例)

既習事項・学習用語の確認

思考を促す「学習の手引き」・ワークシート・思考ツール

机間指導による補助発問

(3) 生徒指導の3機能を生かした授業のために

2 自己存在感を感じる場の充実

♪ 思い・考え伝えよう みんなで学び合おう ♪

◇自分の考えを発表したり、説明したり、記録したりする場の設定

○指名等の工夫

机間指導時に把握した学習状況を生かす

○学習展開の工夫⇒学びの成果の実感

単元末では、粘り強く取り組んで完成した作品の交流や発表会等の設定、振り返り活動の充実

私の意見、授業に役立っている！！



◇役割のあるグループ学習の設定

○課題の工夫

協働しなければ解決できない課題を設定



(3) 生徒指導の3機能を生かした授業のために

3 共感的人間関係を育む場の充実



♪ **しっかり聞いてくれる仲間たち** ♪
♪ **キミの思い・考え 広げ深め高めよう** ♪

◇ 交流活動等を通して児童生徒が自分の考えを変えたり、
考えを深化・拡大したりする姿を求めていく

- 協働の価値を実感できる場の設定(ペア・グループ学習)
- (一斉学習) 発言を繋げて集団の学び合いになるよう、把握した学習状況をもとに展開を組み立てる
- **多様な考えを整理したり、考えを分析・深化させたりする支援**
例 ヒントの提示、思考の型の提示、思考ツールの活用等
- 振り返りの視点の工夫
自分の考えの変化や協働の成果等について振り返らせる

グループ学習が「対話的で深い学び」になるために必要なこと

- 1 興味・関心や学習の必然性のある課題や学習内容であること。
- 2 「めあて」や学習のゴール、「解決すべきこと」「明らかにすべきこと」を見童生徒が理解していること（活動の目的や目標の共有）
- 3 グループ学習の流れに筋が通っていること。
見童生徒が、ゴールや解決までの見通しをもっていること。
- 4 必要に応じて、グループの話合いで求める思考類型に合った思考ツールや使用したい言葉が示されていること。
目的に合った記録用紙が用意されていること。
- 5 グループが、目的や内容に応じたメンバーや人数で編成されていること。
- 6 国語科を中心に「話し合う力」が段階的に育成されていること。

(4) 新大分スタンダードで求める問題解決的な展開の授業

教育学的授業類型

鍛える授業

1 教師主導の講義・実習・習熟型授業

自ら学ぶ授業

2 教師主導の課題解決学習
(学習課題・追究方法とも教師が)

3 児童生徒主体の課題解決学習
(学習課題は教師が)
(追究方法は児童生徒が)

4 問題解決学習
(学習問題、追究方法とも児童生徒が)

問題解決的な展開の授業

ここでも主体的・対話的な授業を目指す

指導計画のポイント

- 確実な習得には問題解決的な展開の単元でも類型1の場面が必要
- 年間の指導を見通し、1つの類型に偏らないよう計画を立てる
- 他教科で得た資質能力が活用されるよう、教科横断的な視野で計画する

求められる授業力

効率よく、効果的に知識・技能を教える力



授業構想力・ファシリテーターとしての力

2 目標達成に向けた組織的な授業改善

確認

- 1 授業改善5点セットは、
 - ①全教員のベクトルを合わせ
 - ②(校内研究の)PDCAをまわすためのツールです。
- 2 【取組内容】はそれを行うことで
児童生徒の学力向上に確実につながるものを設定
します(課題が解決できると判断できるもの)
→学校評価の4点セットと連動するはず！
- 3 【取組指標】は授業改善の取組を、一人一人の教員が
どのように実施するかという指標。教員自身の振り返り
やチェックの仕方・回数等も明記しておきます。

2 目標達成に向けた組織的な授業改善

確認

授業改善の5点セットの設定

【授業改善テーマ】

生徒指導の三機能を意識した単元づくりによる思考力・判断力・表現力を育成する授業

【授業改善の重点】

- ①「書く」ことで、思考力を育成する授業の推進
- ②「話し合う」ことで思考力を育成し、交流の価値に気づかせる授業の推進

【取組内容①】<自分の考えを書く場の設定>

課題解決等に向けて使用する思考の類型(比較・類推・統合等)を示し、自分の考えを書かせる手立てと場を設定する。

【取組指標①】 ※教員一人一人が日々行う授業改善

- ・単元に1回以上は、100字以上で自分の考えを書く場を設定し、書かせたものは、必ず添削をして返却する。
- ・自己の取組を進めるため、教師が示した思考類型が適切であったかを記録し、月に一度、教科部会等でアドバイスをもらう。

【検証指標①】 ※年間3回程度、学校全体で行う検証・改善に用いる指標

■定期テストにおける記述問題に適切に回答している生徒の割合

80字程度で条件に応じて、自分の考えや説明を書く問題に対応できる生徒の割合 85%以上

【組織的な授業改善の考え方】

PLAN

学校の教育目標・重点目標との連動

- ・現状把握・問題点の明確化
- ・授業改善テーマの設定
- ・授業改善の重点と取組内容の設定
- ・取組指標の設定
- ・検証指標の設定
- ・授業改善計画(校内研究計画)の立案
- ・授業改善を推進する組織作り

5点セット



ベクトルを合わせて
協働と切磋琢磨

DO

取組内容・取組指標に基づく実践

- ・生徒による授業評価
- ・研究授業・研究協議・互見授業
- ・管理職等の授業観察
- ・学年部会・教科部会

学校評価との連動

教員評価システムとの連動

CHECK

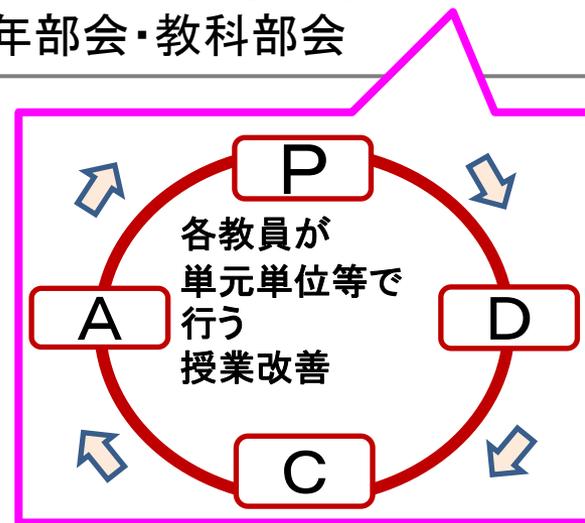
取組指標・検証指標に基づく評価

- ・各教員の取組状況の把握
- ・児童生徒の変容の把握
 - ・単元テスト・各種学力調査
 - ・学校評価・生徒による授業評価
 - ・目標管理シート

ACTION

成果と課題の分析

- ・改善方針・計画の立案
- ・組織の役割の見直し
- ・指導体制の見直し
- ・学力向上プランへの反映
- ・教育課程の改善



Ⅱ 授業づくりを指導する際の目の付けどころ

「新大分スタンダード」に基づく授業改善シートでポイントを確認！

1 指導案 (1) 【単元の指導計画】を読む際の着眼点

□ 付けたい力は明確か

単元の目標、単元の評価基準や評価場面は適切か

□ 学習展開(プロセス)は適切か

課題解決に向けてシンプルに
流れている展開がよい

設定した課題(問題)を、

設定した展開(学習活動)で追究していけば、

付けたい力が付くように単元が設計されているか

□ 教材や言語活動の解釈は適切か

付けたい力と教材と学習活動(言語活動)はぴったり

合っているか

1 指導案 (2) 【本時案】を読む際の目の着眼点

□本時の「ねらい」は適切かつ明確か

□本時の評価規準は、「ねらい」と対応しているか
それを使って実際に評価できるか

つまずきを予想し、前もって指導・支援を考えているか。

□本時の「ねらい」に則した「めあて・振り返り」や
「課題・まとめ」が設定されているか

「ねらい」が内包すべきもの

- A 学習内容(～を、～について)、
- B 学習活動(〇〇を通して、〇〇でまとめて、〇〇と比べて)、
- C 育成する資質・能力・関心態度(△△できるようにする、△△に気付かせる、△△を高める)。

Bにおいては

- ・比較する
- ・理由付ける
- ・試行する
- ・関連付ける
- ・具体化する
- ・構造化する
- ・分類する
- ・推測する
- ・見通す
- など

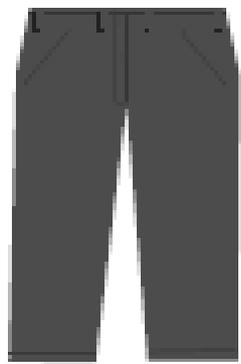
本時の思考の類型を意識する

2 特に重点をおきたい「論理的に説明する力の育成」

全国学力・学習状況調査 算数B問題(平成22年度)



シャツ
定価 1900 円



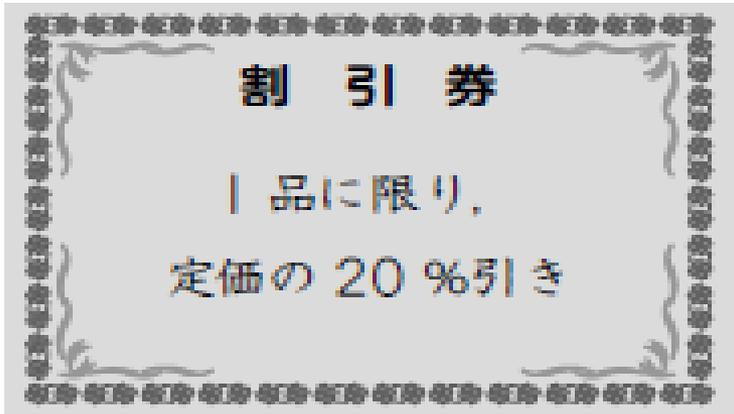
ズボン
定価 3900 円



くつ
定価 5800 円

どれに値引券を使うとお得ですか？

ひろしさんは、右の図のような割引券わりびきけんを1枚持っています。その割引券には、まい「1品に限り、定価の20%引き」と書かれています。



わけは？

17%しか書けない……

(解答例) 言葉で書くなら

①～③を全部書いて正解！

- ①値引きされる金額は、定価×値引きの割合で求められる。
- ②どの商品に割引券を使っても、値引きの割合は20%で同じなので、定価が高いほど値引きされる金額も大きくなる。
- ③3つの商品の中で定価がいちばん高いのはくつなので、くつに割引券を使うと値引きされる金額がいちばん大きくなる。

「過不足のない説明」を全ての教科等の日々の授業で、教員がまず行うこと、そして児童生徒に求めていくことが大事！



おわりに

授業は学校の教育活動の中核です。
生徒指導の三機能を生かした主体的・対話的で深い学びの実現は、児童生徒の学力向上はもとより
体力向上、いじめ・不登校の改善に資するものです。



子どもたちが
今日も頑張った、賢くなったという充実感や達成感、
明日はどんなことがあるんだろうという期待感等をも
って家路につくことができるよう
たゆまぬ授業改善を校長先生のリーダーシップで
進めてください。

校内研修の参考に！

「独立行政法人教職員支援機構」のサイト

新しい学習指導要領において期待される学び：校内研修シリーズ

教職員支援機構のオンライン研修「校内研修シリーズ」では、各学校で実施する校内研修を60分と想定し、その中で活用できる20分程度の動画をお届けしています。

20分程度の講義動画では、基礎理論、または理論的整理と考え方の提示を行っています。

校内研修の始めに視聴し、そのあと、演習や発表を行うことで、校内研修のさらなる充実を図り、教員の資質能力の向上を目指すものです。

「新大分スタンダード」に基づく授業改善を念頭に視聴してほしい

田村学先生の講義 「新しい学習指導要領において期待される学び」

<http://www.nits.go.jp/materials/intramural/004.html>

※次のキーワードで検索すればすぐにたどり着けます。
独立行政法人教職員支援機構・校内研修・田村学